

越後の虎

上杉謙信公と
栃尾



謙信公愛用の兜の前立

上杉謙信公旗揚げの地
栃尾





えちご
越後の虎

うえすぎけんしんこう
上杉謙信公と

とち
栃尾



かぶと まえだて
謙信公愛用の兜の前立

上杉謙信公旗揚げの地 栃尾

目次

序章	1
第1章 上杉謙信 <small>うえすぎけんしん</small>	4
第2章 上杉謙信公旗揚げの城 <small>こうはたあしろ</small> 栃尾城 <small>とちおじよう</small>	16
第3章 謙信の「義」 <small>ぎ</small> の発祥 <small>はつしよう</small> の禅寺 <small>ぜんでら</small> 瑞麟寺 <small>ずいりんじ</small>	22
第4章 常安寺 <small>じようあんじ</small>	28
第5章 秋葉三尺坊 <small>あきばさんじゃくぼう</small> (秋葉神社 <small>じんじや</small>)	30
第6章 上杉謙信と栃尾城の年譜 <small>ねんぷ</small>	34
第7章 上杉謙信Q&A	36

(注) 本文中の年齢ねんれいは満年齢まんねんれいで表記ひょうきしています。

序章

上杉謙信は野望渦巻く乱世にありながらも越後（新潟県）人特有の頼まれれば助けにゆき、裏切られても許すという、暖かい心を持ち、しかも清廉潔白、「義」に生きた戦国最強の武将で、聖将と呼ばれています。乱世に背を向け、人間性にあふれたその生涯は戦国武将の中でも特に異彩を放ち、時代を超えて人々に愛されてきました。

○栃尾の誇り「上杉謙信公旗揚げの地・栃尾」に想う

「栃尾とはどういう所？」と聞かれば、即座に「上杉謙信が育ったところ、旗揚げをした町です」と躊躇なく答え、次に「ジャンボ油揚」と答えるでしょう。そうすると、多くの人が「ああ、そう」と誰もが理解してくれそうです。つまり、上杉謙信なくして、栃尾の歴史は語れない、上杉謙信は私たち栃尾人の誇りです。

このように上杉謙信が栃尾において活躍したことにより、謙信旗揚げの城、栃尾城、「義」の精神を大悟した瑞麟寺、謙信が創建した常安寺、謙信が常安寺に寄進

した秋葉神社（秋葉三尺坊大権現）など、謙信を語る重要な建物や遺蹟が遺り、
栃尾の大きな遺産となっています。

とくに秋葉神社は上杉謙信が常安寺を創建するにあたり、秋葉三尺坊を祀った
社殿を常安寺に寄進し、遷宮したものです。この秋葉神社は、江戸時代に有名な
遠州（静岡県）秋葉山と「いずれが本山か」の裁判の後、「二大霊山のひとつ」と
裁定され、一躍有名となりました。これにより、秋葉神社は「火防の守護神」とし
て県内各地から大勢の参詣者がおとずれ、栃尾の繁栄のもととなりました。

一方、栃尾は上杉謙信時代から軍馬の生産地でした。長岡藩主牧野家も奨励し、
やがて越後の「三大馬市」といわれるほど大きな賑わいとなりました。

この栃尾の「馬市」を秋葉神社の縁日と一緒に開催するようになる、県内各地
から馬の仲買人（なかが）や秋葉神社の参詣者が、さらには近郷近在からの買い物客が集り、
栃尾の町は人、人でごった返しました。こうして「馬市」の日は仕事も休み、街道
の両側には市が所狭しと立ち並び、また秋葉山（公園）にはサーカスや見せ物小屋
がかかるなど、栃尾町は大人から子供まで「お祭り」一色の日となりました。こ
うしたことから常安寺の門前には土産物店などが軒を連ね、さらには冬でも行き来

ができるようにと雁木が作られ、大きく発展していききました。

こうした繁栄はさらに祭りを生み出すエネルギーとなり、江戸時代の中ごろには神輿を担いで町を練り歩く「秋葉大権現祭」が生まれ、「馬市」と併せて「栃尾二大祭り」が定着していききました。

「秋葉大権現祭」は明治維新に諏訪神社に移管され、現在は「諏訪神社春季大祭」として行なわれていますが、祭りの伝統は現在もしっかりと受け継がれています。また「馬市」もすでに馬がいなくなり、「馬市」そのものはなくなりましたが、「馬市」の名称は残り、当日はさまざまな催しが行なわれています。その一つが秋葉公園での「秋葉の火祭り」です。

このように栃尾町の繁栄はまさに上杉謙信公によって生まれたといっておく、その恩恵は計り知れません。「上杉謙信公旗揚げの地」として栃尾を誇りに思うとともに、心から感謝をしたいと思えます。

このたびは上杉謙信、そして上杉謙信と関係の深い「栃尾城」や「義」の精神を培った「瑞麟寺」、上杉謙信が創建した「常安寺」、そして栃尾町の繁栄の基礎となった「秋葉三尺坊」を、改めてみんなで学ぶために、この冊子を発刊しました。



謙信公銅像（秋葉公園）

上杉謙信（長尾景虎）が栃尾について語った貴重な手紙が残っています。その一部を紹介します。

《上杉謙信の手紙》

長尾家は昔から、守護の上杉家に忠節を尽くしてきましたが、当家を滅ぼそうとされた事は幾度もありました。父の為景は百回もの戦いをし、軍功も数え切れないほどでした。しかし、亡くなった時には敵が足元にまで迫り、私は鎧を着けて葬送しなければならぬほどでした。その後、兄の晴景が病者のせい、か、下越地方の者が参勤しなく、わがままの振舞に際限がありませんでした。

謙信は幼いときに父を失い、程なく古志郡にく

だりましたところ、若年と侮り、近郡の者が方々から栃尾に向かい、攻め込んできましたので防戦に及びました。

謙信は幼時から戦さの心得がありませんでしたので、懇切丁寧に戦さの技術を学び、皆さんと共に戦い、敵を討つこと、その数を知らないほどで、長尾の家名を上げました。

—謙信（長尾景虎）が栃尾に無事到着したことを栃尾城主、本庄実乃が春日山城の守護代、国主の長尾晴景に報告しました—

《守護代、晴景（兄）から栃尾城主、本庄実乃への手紙（返事）》

そこもとの様子をこまごまと知らせてくれてありがとう。（略）、栃尾城や備えのことについては、皆とも相談して堅固にすることが大事です。なお、近々、景虎が出陣すること。そうなれば勝利はすぐ目の前でしよう。

【1】上杉謙信（長尾景虎）壮大なドラマの幕開け



(1) 上杉謙信、堂々と栃尾城に入城

天文十二年（1543）、栃尾城は若き盟主（プリンス）を迎えて沸き返っていました。というのも国主（長尾晴景）の弟、高貴な若殿（景虎）様が、遠くこの山間の地、栃尾にやってくるというのですから。

その高貴な若殿、長尾景虎（後の上杉謙信）は春日山城において国主の晴景から中郡の郡司を任命され、はるばる高田から三条城を経て栃尾に到着しました。まずは、城下の休憩所において軍装を麗々しく整え、大勢の武将を従えました。「武者はじめ（初陣）」の儀式を行いました。統領の景虎は頭上に白い頭巾をかぶり、右手に軍配、左手に数珠を持ち、馬に跨る。その凛々しい出で立ちは息を飲むほどでした。そして栃尾城の兵士や近隣の人々が出迎える中を堂々と栃尾城に入城したのでした。新しい栃尾の運命の幕開けでした。

(2) 中郡の郡司、国主の名代の上杉謙信

上杉謙信は享祿三年（1530）、直江津（府中）の長尾居館（荒川館）に生まれました。子供の頃は虎千代と呼ばれていました。

お父さんの守護代、長尾為景は守護の上杉房能、関東管領の上杉顕定を打ち破り、国主の座につきました。しかし、その後も戦さは収まらず、越後の国内は騒然としていました。

天文五年（1536）、父の為景は病床に伏したことから家督を息子の晴景に譲り、六歳の弟、虎千代（謙信）を高田の林泉寺に預けました。

天文十年（1541）十二月二十四日、謙信が十一歳の時、生涯、百度もの戦争を経験し、戦鬼と呼ばれた父の為景が亡くなりました。その葬儀には危険が足元にまで迫っていることから、鎧を着けて見送ったほどであったと、先の手紙に書かれています。

二年後の天文十二年（1543）、十三歳となった虎千代は元服し、名前を景虎（謙信）と改めました。そして、雪解けを待って、栃尾に派遣されたのでした。国主の兄、晴景は弟の謙信と兄弟が協力しあって越後を平和にしようと思ったからです。そのためにまず、謙信を同盟関係を結んでいた栖吉城主の栖吉長尾氏の養子として親戚関係の絆を強め、さらに蒲原郡、刈羽郡、三島郡、

そして古志郡の4郡という、広い地域（中郡）の郡司（司令長官）に任命、その上、国主の名代（代理）という国主に次ぐ高い地位と権力を与えたのでした。その到着の様子を栃尾城主の本庄実乃が春日山城の国主、晴景に知らせたところ、早速晴景から返事が来しました。それが先の晴景の手紙です。八月頃のことでしょうか。

(3) 戦場の悲惨さと景虎の葛藤。「義」の精神を見出す

思いがけない君主（プリンス）景虎の派遣に近隣で敵対していた豪族は驚愕（おどろき）し、方々から戦さを仕掛けてきました。景虎はそうした戦場をみてまわりました。戦場はあまりにもむごく、目をそむけたくなるような痛ましいありさまでした。林泉寺での修行において殺生を禁じられ、慈悲を学んできた謙信にとっては全く正反対の矛盾にみちた、悲しい世界でした。

しかし、一端、戦場に出ればいかに酷い世界であろうと、突き進まなくてはなりません。その葛藤をいかに克服するか、それが上杉謙信の超えなければならぬ、厳しい課題でした。

幸さいわいにして、栃尾城かかわむの川向かむかむこうに、父ちち、為景ためかけが創建そうけんした禅寺ぜんじ、瑞麟寺ずいりんじがあり
 ました。謙信はさっそく、瑞麟寺の門をたたき、樵岩しょうがん恕昂じよおう禅師ぜんじのもとで参禅さんぜんし、
 葛藤かつどうの克服こくふくに邁進まいしんしたのです。その結果、「非道ひどうや謀略ぼうりやくはしない」という、「神
 仏かみぶつに恥はづかじない」生き方をし、「越後を平和に導く」ことを決心けつじんしたのでした。「義
 の精神ごんしん」と今日こんにちではいわれています。

(4) 景虎かげこ、本庄実乃ほんじょうさねよりより手ほどきをうけ、たちまちにして越後を制覇せいぱ

「謙信は幼時ようじの時代から戦さの知識がありませんでしたので、懇切丁寧こんせつていねいに戦
 さの技術を学び、皆みなさんと共に戦い、敵を討つこと、その数を知らないほどで、
 長尾の家名ながおのいみなを上げました」

これまでは林泉寺での修行生活しゆぎようせいかつでしたから当然とうぜん、戦さの知識などあるはずも
 ありません。そこで、武勇ぶゆうや、知略ちりやくにすぐれた栃尾城主の本庄実乃ほんじょうさねよりから、みっ
 ちりと兵法へいほうや武術ぶじゆつを学んだのです。そして翌年よくねんの十四歳の春ういしんに初陣はつじんを果はたし
 たのでした。兄あに、晴景の手紙てがみにもありましたように、謙信は出陣しゅつじんするや、たち
 まちにして、周囲しゅういの敵てきを倒たおし、その名を四方しほうにとどろかしたのでした。

ところが、天文十五年（1546）、剛勇をもって聞こえた黒田秀忠が謀反を起こし弥彦村の黒瀧城にこもりました。謙信はさっそく出陣をしたところ、「謙信の出陣」を聞いた黒田は驚き、頭を剃って他国に逃げました。しかし、一年後、またもや黒田は黒瀧城にこもって抵抗をしました。景虎はまたもや出陣し、黒瀧城を徹底的に攻め、黒田家一族を滅ぼしました。

あの剛勇をもって知られた黒田秀忠が、景虎が出陣したと聞いたただけで頭を剃って逃げ、また反乱を起こすや徹底的に攻められ、一族が滅びた話は越後全土に広まり、上杉謙信は戦争の「天才児」、「越後の麒麟児」と恐れられました。そして、それ以降、越後（新潟県）においては謙信に抵抗する武将はいなくなり、ようやく平和が訪れたのでした。謙信はまだ十八歳。今日でいえばまだ高校三年生という若さでした。父の為景が四十年の歲月をかけ、百回もの戦いをしても平定できなかつた、この広い越後をわずか五年で静謐（おだやか）にしたのでした。

こうしたことから謙信（景虎）の名前は越後全土に響きわたり、謙信を国主

にという声が各地に挙がりました。そこで、話し合いの末、病弱な兄、晴景に替わって国主となることになりました。そして、栃尾・長岡から多くの家臣を引き連れ、住み慣れた栃尾から春日山城に登ったのです。

【2】その後の謙信と栃尾衆

(1) 栃尾の政府、越後（新潟県）の政治をつかさどる

国主となった上杉謙信はさっそく本庄実乃を中心とした行政府をつくり、中枢に本庄実乃をおき、執政としました。また共に語り合い戦った、同僚の栃尾衆を謙信の旗本として身の回りの警護を任せました。いわば栃尾の政府がそっくり春日山城に移動した形でした。

その後、長い間、敵対してきた魚沼郡の上田城主、長尾政景が謙信に降参し、越後にはもう敵対する豪族はいなくなり、事実上の国主、越後守護になりました。

(2) 川中島合戦起こる

京都に上洛する直前、甲斐の武田信玄から攻撃をうけていると、北信濃

(長野県)の豪族から助けを求められて出陣しました。そして怒涛のように武田軍を追撃して追いつきました。以降、川中島を境に五回にわたって合戦が繰り広げられました。有名な川中島合戦です。

(3) 上洛し参内する

京都に上洛し、宮中に参内。後奈良天皇に拝謁しました。そのあと將軍足利義輝や関白の近衛前嗣と会見。意気投合して天下を統一することを話し合いました。

(4) 関東管領に就任

越後に帰るや、上杉家を相続し、將軍につぐ権威、関東管領に推薦されました。謙信は越後軍を率いて関東に入り、関東の援軍と一緒に小田原城を攻撃した後、鎌倉の鶴ヶ岡八幡宮において盛大な関東管領の就任式を行いました。

(5) 天下統一に動きだす

上杉謙信は越後を中心に関東八州(関東八か国)、能登など広大な地域の統領となり、大きな勢力を築きました。京都にいる將軍の足利義輝や関白の近衛前

嗣と連携し、関東・東海地方の大包囲網をつくり、北陸から攻め登るとい
 う
 大きな構想が生まれました。謙信はまだ三十二歳の若さでした。

(6) 謙信の逝去

謙信は出陣すること七十余度。そのほとんど負けませんでした。そして、
 四十八歳（数え四十九歳）の時に、関東に攻め込む直前に突然倒れて亡くなり
 ました。

(7) お館の乱、おこる

上杉謙信が亡くなると、養子の上杉景虎と上杉景勝との間に国内を二つに分
 けた戦争が起きました。栃尾城主の本庄秀綱は景虎方の総大将として奮闘し
 ました。天正八年（1580）に、栃尾城は景勝の猛攻を受けてあえなく落城
 してしまいました。



謙信公銅像（栃尾美術館）



栃尾市街地から栃尾城跡を望む

【1】 栃尾城について

(1) 天下一の絶景、栃尾城

栃尾市街地の西方に、天高く城形のシルエットを描いているのが、栃尾城（県指定文化財）が築かれていた鶴城山（二二七メートル）です。本丸の平坦地と空堀に落ちる姿が鮮やかに眺望され、守門岳や刈谷田川、西谷川の二筋の河とともに情緒纏綿とした、栃尾の象徴となっています。上杉謙信がこの栃尾城で旗揚げをし、国主となって春日山城に登るまでの青年期を過ごしたお城です。

栃尾には交通の要所などに二十を超える山城（砦）が築かれています。それらの要の位置に、拔群の威容を誇り、春

日山城や坂戸城につぐ県内屈指の城郭であり、壮大な根小屋式の要塞堅固、難攻不落のお城です。

縄張り（城の構造）は鶴が羽根を広げたようなし字形になっていることから舞鶴城とも呼ばれています。本丸はひときわ高く、幅約九メートル、長さ約六十メートル、面積五百四十平方メートル（百六十坪）ほどの細長い平坦な曲輪となっていて、天然の天守閣となっています。本丸からは遠くは佐渡、弥彦・蒲原、また真向かいに霊峰守門岳、粟ヶ岳が聳え、さらに眼下に目をやると、市街地が一望のものにみることででき、その雄大な眺望はまさに絶景としかいいようがありません。

(2) 枋尾城の特徴

枋尾城は山の地形を巧みに利用して縄張りされた山城です。その特徴は、最も早い時期に舞鶴型に縄張りされ、翼に挟まれた谷間においては、兵糧用の田畑が耕作されていました。城下には武家屋敷を構え、常に戦に出られる体制がとられていました。兵農分離といい、これも日本では最も早い時期に行なわれました。

城は、山頂からは県内では最も長いといわれる大空堀が掘られ、広い「千人溜り」に向かって下りているなど、要所要所に工夫が凝らされた難攻不落の城塞となっています。

(3) 栃尾城の概要

栃尾城は一番高い本丸を中心に翼の左側、市街地側は尾根を利用して、松ノ丸、三ノ丸、五島丸と連なり、長峰側に降りています。また本丸に向って左の、大野側は二ノ丸、中ノ丸、琵琶丸、馬繋ぎ場、狼煙台が連なっています。

【2】 栃尾城の歴史

(1) 栃尾城主の変遷（前期栃尾城主）

南北朝時代初期、足利尊氏が政権をとると越後守護に宇都宮氏綱がなり、栃尾にはその老臣、芳賀禪可が入り、栃尾城を築き、初代城主となりました。ところが、芳賀一族が上杉軍と戦って敗退すると、替わって上杉憲頭の家臣、大関兵部が栃尾城に入り、二代目の栃尾城主となりました。大関兵部は



栃尾城跡本丸を望む

栃尾城の特徴である舞鶴形に縄張りを
行い、また城下に武家屋敷を構えて
兵農分離の体制を整えました。以降、
本庄実乃や上杉謙信が入城するまで、
代々大関家が城主をつとめ、揺るぎな
い完璧な城作りを進めていきました。

上杉謙信が栃尾城に入り、中郡の
郡司に就任すると、栃尾城主は本庄実
乃、つづいてその息子の秀綱が城主を
勤めました。

(2) 後期栃尾城主

ところが、お館の乱で栃尾城が落城
すると、上杉景勝の家臣、村田大隅
守、宮島三河守、清水内蔵助などが

相次いで居城しました。

けいちよう

慶長三年（1598）に上杉家が会津に転封すると、替わって堀氏の家臣、

まるたいずのかみ

丸田伊豆守・神子田長門守の治めるところとなり、慶長十五年（1520）二

まつだいらただてる

月、松平忠輝が国主となると、栃尾は家臣の、松平築後守信勝が栃尾城主とな

げんな

り、元和二年（1616）に松平忠輝が徳川家康の怒りにふれ、領地を没収さ

れると、栃尾は三条城主の市橋下総守長勝の支配するところとなりました。

いちはししもふさのかみながかつ

けいちよう

栃尾城は慶長十五年（1610）に廃城となりましたが、「慶長十九年

（1614）、市橋下総守が居城を三条に移すにおよび廃城」ともあります。こ

うして、栃尾城は約二百七十年という長い歴史に幕を閉じたのでした。



のろしだい
狼煙台から本丸、守門岳を望む（古い写真）



瑞麟寺跡

【1】上杉謙信の「義」の精神を培った幻の寺、瑞麟寺

(1) 青年、景虎の葛藤

わずか十三才の上杉謙信（景虎）は、天文十二年（1543）に、兄の晴景から中・下越地方鎮圧の命を受け、戦乱の真っ只中の枋尾城に派遣されました。これまで林泉寺において修行三昧を過ごしてきた謙信にとっては、まさに青天の霹靂の出来事でした。

戦争は人を殺しあう修羅の世界です。そこには目を覆うばかりの地獄絵が展開されていたのでした。謙信はその一軍の将として自ら陣頭に立って戦闘の指揮をとらねばなりません。「人を殺すなかれ」という仏教の戒律を犯すことは謙信の心を

深く傷つけたのでした。

人生で最も多感な青年期に、しかも、人一倍、やさしい心をもっていた謙信にとつて、想像しえない大きな衝撃ではなかったのではないでしょう。その矛盾と葛藤をどう解決するか、若き謙信にとつて最大の課題でした。

(2) 栃尾瑞麟寺の高僧との出会い、「義」の信念を感得

幸いにして謙信が下向した栃尾には、父、為景が創建した瑞麟寺が栃尾城からわずかに離れた所にありました。現在の上越市吉川区の転輪寺三世の湖山性東和尚が隠居をするにあたって建てられた禅寺でした。当時、転輪寺は新潟県における曹洞宗（禅宗）の拠点で、多くの優れた禅僧を輩出していました。謙信が栃尾に派遣された時には、すでに開山の湖山和尚は遷化され、弟子の二世、樵岩怒昂和尚があとを継いでいました。同和尚もまた徳の高い禅僧として知られていました。

景虎は瑞麟寺の門をたたき、林泉寺での修行と同様、参禅につとめ、その矛盾の解決に全力を傾けました。その結果、「神仏に恥じない生き方」「筋を通

【2】瑞麟寺の歴史

(1) 瑞麟寺の創建

して生きる」という「義」の精神を悟り、生涯、「義」の精神を貫いて生きることを誓ったのでした。聖将と言われるゆえんです。

白い無垢の頭巾をかぶり、鎧で身を固め、右手に軍配、左手に数珠という、これまで誰もが目にしたことのない出で立ちは、周囲を圧倒しました。そして麒麟児のように戦場を駆け巡る雄姿は、百回もの戦争に出て戦さの鬼といわれた父、為景譲りの気迫に満ちたものでした。

瑞麟寺は永正十五年（1518）に転輪寺の隠居寺として、謙信の父、為景が建立した禅寺です。常安寺に遺る梵鐘はその五年後の大永三年（1523）に鑄造されたもので、寄進者は「檀越道見」とあります。瑞麟寺は、宮沢の旧農免道路の南側、刈谷田川左岸の中腹（段丘中位）の字瑞麟寺、通称「寺屋敷」と呼ばれた一枚田に鎮座していました。

この地に立つと、右手前面の南方には雄大な守門岳がそびえ、刈谷田川の対岸の左手前方には平集落があり、その上部には枋尾城の前身といわれた「平の城」が、下部の杉林には守門大明神（守門神社）が鎮座していました。昭和四十六年と平成七年の二回の発掘調査によって、間口七間、奥行五間くらの書院造りの禅寺ではなかったかと推測されています。

(2) 瑞麟寺の系譜

瑞麟寺の系譜をたどると次のようになっていきます。

円通寺（丹波水上郡）― 転輪寺（吉川村）― 瑞麟寺（枋尾宮沢）― 常安寺（枋尾谷内）

(3) 瑞麟寺の歴代住職

転輪寺の過去帳によれば瑞麟寺の歴代住職は次のとおりです。

開山 湖山性東（転輪寺三世） 永正十五年（1518）就任、享祿四年

(1531) 遷化

二世 樵岩怒昂（転輪寺四世） 享祿四年（1531）就任、天文十七年

(1548) 遷化

三世 天応千鶴(転輪寺五世) 天文十七年(1548) 就任、永禄十年

(1567) 遷化

四世 芳山周薫(転輪寺六世) 永禄十年(1567) 就任、天正十八年

(1590) 遷化

五世 泰簾門察(常安寺開山) 天正十八年(1590) 就任

(4) 上杉謙信との関係

① 二世樵岩怒昂和尚深い禅の思想や四書、五経、歌道・茶道などの高い教養を教授。 謙信は京都に上り公家と交流するにあたり、大きな力となりました。

② 四世芳山周薫和尚上杉謙信のよき相談役を勤めたものと思われます。 弟子の江室昌派・泰簾門察を外交官に推挙しました。

③ 五世泰簾門察和尚瑞麟寺最後の住職。 外交官としての功績を讃えられ、謙信により常安寺を創建してもらいました。

慶長三年(1598)の上杉家の会津転封までの八年間、住職をしたもの



瑞麟寺梵鐘

と思われ
ます。



上杉謙信は天文二十年（1551）、二十一歳の若さで越後を平定。そして二十二年（1553）に京都に上洛。宮中に参内して後奈良天皇に拝謁をするという、当時としては前代未聞の快挙をなしとげました。この時に転輪寺六世芳山周薫和尚（瑞麟寺四世）の弟子、泰簾門察は軍使（外交官）として活躍、万全の手配を整えて、成功に導きました。その功績を讃えて上杉謙信は門察和尚に自分を育てた栃尾に常安寺を創建してあげました。

この時に併せて榆原の岩野蔵王堂にあった秋葉三尺坊を祀った「般若院」とその社領を寄進し、常安寺境内に遷宮しました。それが現在の秋葉神社です。なお、門察和尚はその後、師匠の後を継ぎ、瑞麟寺五



上杉謙信並二臣像



五言対句

世となりました。



(1) 枋尾の楡原にれはらにおいて秋葉三尺坊しゆぎやう（周国かねくに）が修行

枋尾の楡原、岩野原いわのはらに吉野よしのの蔵王権現ざおうこんげんの修行道場しゆぎやうがありました。そこには本宮ほんぐうを中心に十二の坊

（僧侶の住居・修行道場）が立ち並び、一大靈場れいじやう

を形成けいせいしていたといわれています。そこに長野県ながのけん

の飯縄山いづなさんで修行した修験しゆげん（山伏やまぶし）、周国かねくに（後の秋

葉三尺坊）が修行に來ました。周囲は境内けんだいの三尺

坊で修行していたことから三尺坊と呼ばれました

た。やがて不動明王ふどうみやう・おうざんまいあらぎやうの荒行しゆうを修して、修験道しゆげんどう

の極意ごくいを感じかんじしました。

三尺坊は修行を成就じゆうじゆしたときに、「わが名を呼

ぶものあらば、火災盗難かさいとうなんを防止ぼうしする」と叫びさけ、そ

こに現れた白狐あらかわに騎びやくこって空中を飛行の、静岡県のしずおかけん

秋葉山あきはさんに舞まい降りりました。この飛び立つ光景まを目のあたりまにした栃尾蔵王権現はんにやの修行者しゆぎようしゃは、恐れおのおそののき、三尺坊さんしゃくぼうを威徳大権現いとくだいこんげんと崇あがめ、境内しやでんに社殿しゃでん「般若院はんにや」を建立こんりゆうして祀まつりました。

戦国時代末期じやうあんじに上杉謙信じやうけんしんは常安寺じやうあんじを創建けんけんするにあたり、この「般若院はんにや」と社領しゃりやうを寄進きしんし、社殿しゃでんを常安寺じやうあんじ境内しやでんに遷宮せんぐうしました。

(2) 遠州えんしゆう（静岡県）秋葉山あきはさんの秋葉三尺坊あきはさんしゃくぼう、火防ひぶせの守護神しゆごじんとして名なを馳はせる

三尺坊さんしゃくぼうは静岡県しやんけいけんの霊山れいざん、秋葉山あきはさんに舞まい降りりるや、秋葉三尺坊あきはさんしゃくぼうと呼ばれ火防ひぶせの守護神しゆごじんとなりました。そして、東海地方とうかいちほうはもとより関東かんとうや関西かんさいからも日々ひび、多くの参詣者さんけいしやが訪まれ、「遠州秋葉大権現えんしゆうあきはだいこんげん」の名前なまえは全国ぜんこくに轟とどろきわたりました。

江戸時代えどじだいの中なごろ、この「遠州秋葉山えんしゆうあきはさん（別当秋葉寺べつとうしゆうようじ）」と栃尾とちおの「三尺坊さんしゃくぼう（般若院はんにやいん）别当常安寺べつとうじやうあんじ」との間に「いづれが本山ほんざんか」の訴訟そしやうが起おこりました。その結果けつこ「遠州えんしゆうは秋葉信仰あきはしんこう、布教ふきやうの地ち」「栃尾とちおは三尺坊修行さんしゃくぼうしゆぎようの地ち」としていづれも「本山ほんざん」となりました。この時とき、裁判官さいばんかんの背後はいごに控ひかえていたのが、有名な大岡越前守おおおかえちぜんのかみでした。

(3) 栃尾の秋葉三尺坊、栄える

栃尾常安寺の秋葉三尺坊は先のように「二大霊山のひとつ（火防日本総本廟）」となったことから、県内各地から「火防の秋葉山」として大勢の参詣者が訪れるようになりました。

そして常安寺の前には土産物の店などが立ち並んで門前町となり、栃尾町の繁栄のもととなりました。特に「馬市」を秋葉神社の縁日と一緒に開催するようになると、県内各地から馬の仲買人や秋葉三尺坊の参詣者が、さらには近郷近在からの買い物客が集まるなど、栃尾町は人、人でごった返しました。そして、「秋葉大権現祭」が生まれ、「馬市」と「秋葉大権現祭」（現在は諏訪神社春季大祭）は栃尾の「二大祭り」として定着していきました。



秋葉の火まつり

上杉謙信うえすぎけんしんと栃尾城とちおじょうの年譜ねんぶ

年	時代	できごと
1508	下克上 <small>げこくじょう</small>	長尾為景 <small>ながおためかげ</small> により、太田 <small>とうた</small> に東福寺 <small>とうふくじ</small> 再建 <small>さいけん</small> される
1509		上杉謙信 <small>かみすぎけんしん</small> の父 <small>ちち</small> 、長尾為景 <small>ながおためかげ</small> 、越後守護 <small>えちごしゆご</small> の上杉房能 <small>ふさよし</small> を下 <small>くだ</small> す
1510		為景 <small>かみすぎけんしん</small> 、関東管領 <small>かんとくあんれい</small> 上杉顕定 <small>あきさだ</small> を下 <small>くだ</small> す
1515		長尾為景 <small>ながおためかげ</small> により、瑞麟寺 <small>ずいりんじ</small> 建立 <small>けんりゅう</small> される
1523		瑞麟寺 <small>ずいりんじ</small> の梵鐘 <small>ぼんしょう</small> 鑄 <small>い</small> られる
1530	上条の乱 <small>じょうじょうらん</small>	上杉謙信 <small>かみすぎけんしん</small> 誕生 <small>たんじ</small> （幼名 <small>ようみ</small> 虎千代 <small>とらちよ</small> ）
1531		上条定憲 <small>じょうじょうさだのり</small> 、乱 <small>らん</small> を起 <small>お</small> こす（上条 <small>じょうじょう</small> の乱 <small>らん</small> ）
1535		為景 <small>かみすぎけんしん</small> 、栃尾 <small>とちお</small> に在陣 <small>ざいじん</small>
1536		為景 <small>かみすぎけんしん</small> 、晴景 <small>はるかげ</small> に家督 <small>かどく</small> を譲 <small>ゆず</small> る
1538		謙信 <small>かみすぎけんしん</small> （虎千代 <small>とらちよ</small> ）、林泉寺 <small>りんせんじ</small> に預けられる 上条 <small>じょうじょう</small> の乱 <small>らん</small> 収束 <small>しゆうそく</small>
1541	養子 <small>ようし</small>	守護 <small>しゆご</small> 、上杉定実 <small>さだざね</small> の養子問題 <small>ようしもんだい</small> 起 <small>お</small> こる 為景 <small>かみすぎけんしん</small> 没 <small>ぼつ</small> す。養子問題 <small>ようしもんだい</small> 収束 <small>しゆうそく</small>

Q1 上杉謙信っていつ頃の人ですか。

A… 戦国時代中ごろに活躍しました。

戦国時代	初期 <small>しよき</small>	中期 <small>ちゆうき</small>	後期 <small>こうき</small>
越後 <small>えちご</small>	長尾為景 <small>ながおためかげ</small>	長尾景虎 <small>かげとら</small> （上杉謙信）	上杉景勝 <small>かげかつ</small>
日本	北条早雲 <small>ほうじようそうん</small>	武田信玄 <small>たけだしんげん</small> 織田信長 <small>おだのぶなが</small>	豊臣秀吉 <small>とよとみひでよし</small> 徳川家康 <small>とくがわいえやす</small>

Q2 上杉謙信ってどんな人生を送ったのですか。

A… 上杉謙信は府内ふない（直江津なおえつ）の荒川河口付近あらかわかこうふきんの屋敷、長尾居館ながおきよかん（荒川館あらかわだて）で生まれました。現在知られているのは、兄は晴景はるかげ（守護代しゆごだい）、姉は仙洞院せんどういん（長尾ながお政景まさかげの夫人、上杉景勝の母）の三人兄弟の末っ子でした。その人生を簡単にま

とめると次のようになります。

<p>府内 (直江津)</p>	<p>5歳まで (5年間) 直江津の長尾居館で育つ</p>	<p>高田・林泉寺 6〜12歳 (7年間) 修行と勉学に励む</p>
<p>栃尾城 (栃尾)</p>	<p>13〜18歳 (6年間) (中学1年)〜(高校3年)</p>	<p>蒲原郡、刈羽郡、三島郡 古志郡の4郡の郡司 栃尾城において初陣、越後を制覇、瑞麟寺にて「義」の心を悟る</p>
<p>春日山城 (上越)</p>	<p>19〜48歳</p>	<p>越後守護代・越後守護(国主) 関東管領 越後を統一 上洛(京都に登る) 参内、川中島合戦 関東・北陸を制覇</p>

Q3 謙信にはいろいろの名前があるようですが。教えてください。

A 名字^{みょうじ}…はじめ長尾^{ながおせい}姓^{せい}でしたが、上杉憲政^{うえすぎのりまさ}から家督^{かどく}を譲^{ゆず}られ上杉姓^{うえすぎせい}となりました。

A 名前^{なまえ}…基本的には幼年^{しょうねん}期^き…虎千代^{とらちよ} 青年^{せいねん}期^き…景虎^{かげこ} 晩年^{ばんねん}…上杉謙信^{うえすぎけんしん}ですが、

そのほかに政虎^{まさこら}（上杉憲政^{うえすぎのりまさ}の政^{せい}をもらう）、輝虎^{てるこら}（足利義輝^{あしかがよしてる}の輝^{てる}をもらう）、また僧名^{そうめい}は宗心^{そうしん}（大徳寺^{だいたくじ}にて参禅^{さんぜん}し、授けられる）、謙信^{けんしん}（高野山^{こうやさん}の宝幢寺^{ほうとうじ}清胤^{せいいん}より授けられる）。なお、上杉謙信^{うえすぎけんしん}を名乗^なったのは41歳の頃からです。

Q4 謙信はいつ頃栃尾^{とちお}に来たのですか。

A …天文十二年^{てんぶんじふにねん}（1543）、謙信^{けんしん}十三歳のときです。今でいえばまだ中学1年生^{せいねい}という若さでした。

Q5 栃尾に派遣されなければならなかった理由はなんですか。

A…中越と下越地方の治安がすぐれないために、守護代の長尾晴景は同盟関係にあった栖吉城主、古志長尾氏に弟の景虎を養子に入れて絆を強くし、手を携えて平定していこうと考えました。

Q6 景虎の権限とはどのようなものでしたか。

A…直接の名目は古志長尾氏の養子としてでしたが、その権限は古志郡・蒲原郡・三島郡・刈羽郡の四郡という広い地域を管轄する司令長官（郡司）であり、しかも守護代の長尾晴景の名代という、守護代につぐ強い権限でした。

Q7 具体的にはどのような権限だったのですか。

A…この広い中郡において行政と警察権を兼ねた権限です。景虎は栃尾に赴任するや、中郡を管轄する行政府をおいたのです。

Q8 なぜ景虎は栖吉城ではなく栃尾だったのでしょうか。

A…それには次のようないくつかの条件がありました。

①古志長尾氏の養子としたとしても、栖吉城にはれっきとした青年将校、長尾景信が活躍していました。

②地理的にはつぎのような要件を備えていました。

① 蒲原郡、古志郡、魚沼郡の越後と会津を結ぶ交通の要所にある。

② 栖吉城と友軍の三条城とを結ぶ中間点にあり、異常があればすぐに対応できた。

③ 栃尾は四方を山に囲まれ、また栃尾城は天然の要害に守られた難攻不落の城である。栖吉城につぐ古志長尾氏の拠点であった。

Q9 栃尾に在城、六年間の謙信の大きな業績はなんですか。

A…①謙信がまだ十三歳という少年であることから、方々から敵が戦を仕掛けて

きましたが、それらの敵をことごとく倒しました。

② 政策を実行に移していききました。たとえば三条の本成寺の寺領を安堵したり、平にあった山伏の守門大明神に名木野の地を寄進したことなどです。

③ 黒田和泉守が謀反を起こしたのでこれを鎮圧しました。

④ 宮沢の瑞麟寺において修行、「義」の精神を大悟し、聖将と称されるようになりしました。

Q10 謙信の初陣はいつ頃でしたか。

A… 上杉謙信は林泉寺で修行していたことから、「幼時からわきまえがなかったので」というように、全く戦争や兵法、武器のあつかいなどは知りませんでした。栃尾城にきてから「ねんごろに弓箭（いくさのこと）のわざをうけ」と指導を受けたのでした。しかも、最初の一年は仏教（人を殺してはいけません）の戒律と戦争に出れば敵を倒さなければならぬという矛盾と葛藤の克服のため、厳しい修行を瑞麟寺で行いました。それらの葛藤が克服されたあとに、戦

争の指揮をとる訓練にはいったのです。結局、一年後の十四歳のときに初陣したといわれています。

鎧に身を固めて右手に軍配、左手に数珠という、これまで誰もが目にしたことのない、息を飲むような凛々しい出で立ちは、周囲を圧倒したのではないかと思います。そして、戦場を駆け巡る姿は、百回もの戦争に出て戦の鬼といわれた父、為景譲りの、まさに麒麟児のような気迫に満ちたものであったに違いありません。

Q11 指導した本庄実乃ってどんな人ですか。

A…謙信を終始補佐をし、指導したのは本庄新左衛門尉実乃でした。年齢は景虎よりも三十二歳ほど上で、ほぼ父子のような関係にありました。彼は軍師として優れた才能をもち、あわせて民政、外交にも卓越した手腕をもった有能な武将でした。謙信と実乃のその名コンビぶりは、その後の上杉景勝と直江兼続のコンビとまさにそっくりの息のあった主従でした。

Q12 一生の間にどのくらいの戦争にでたのですか。

A… 謙信は生涯しやうがいのに約七十余度やくよとどという当時としては最も多くの戦争を体験した「激戦げきせんの武将ぶしやう」でした。越後えいご(新潟県)の平定へいていに七回、関東出兵かんとうしゅつべいは実に三十七回、北陸ほくりく十九回です。ところが信濃しなのへの出兵しゅつべいはわずか七回でしかありませんでした。その結果、四十三勝二敗、二十五引き分け、勝率しょうりつ95パーセントというすごいものでした。

Q13 上杉謙信が栃尾城さいじやうちゆうに在城中とりで、深く関係した砦とりでや寺社じしや、人物じんぶつなどはどうですか。

A… 栃尾城おおのの、大野じよつかんの城館おおのなど栃尾城を取り巻く二十もの山城やまじろ(砦とりで)が各地とりでにありました。また瑞麟寺ずいりんじ・守門大明神すもんだいみやうじん・蔵王権現ざおうごんげん(楡原にればら)、本庄実乃さねより・本庄秀綱ひでつななどが知られています。

Q14 謙信は栃尾のお祭りにも深く関わっているといわれますが。

A… 栃尾の昔からの大きな祭りは、秋葉大権現祭あきはまゐらひ(諏訪神社すわ春季大祭しんじやしゅんきださい)と馬市の

二つです。

上杉謙信は栃尾に常安寺じょうあんじを創建そうけんするにあたり、すでに荒廃こうはいしていた楡原うづらの蔵王権現ざおうごんげんの境内けいだいにあった、秋葉三尺坊あきばさんしやくぼうを祭まつった社殿しゃでん、「般若院はんにやいん」とその社領しゃりょうを常安寺じょうあんじに寄進きしん、後に「般若院はんにやいん」は秋葉山あきばさんに移転いってんされ、秋葉三尺坊あきばさんしやくぼうとなりました。この秋葉三尺坊あきばさんしやくぼうの祭まつりが「秋葉大権現祭あきばだいごんげんさい」で、現在の諏訪神社すわじんじ春季大祭しゅんきだいさいです。もう一つは、上杉謙信かみすぎのぶが奨励しょうれいして盛んさかとなった「馬市うまいち」です。

Q 15 上杉謙信と飯縄権現との関係は？

A … 上杉謙信かみすぎのぶの兜かぶとの前立まえだては飯縄権現いづなごんげんです。大正四年たいしよしよんねん（1915）の謙信公祭けんしんこうさいのとききに米沢よねざわの上杉家うえすぎけより賜たまわったもので、常安寺じょうあんじが管理かんりをしています。実は秋葉三尺坊あきばさんしやくぼうが終生しゆうせい、信仰しんこうしていたのも飯縄権現いづなごんげんでした。

Q 16 栃尾における上杉謙信の伝説にはどのようなものがありますか。

A … 栃尾とちおの各地あちには上杉謙信かみすぎのぶに関する多くの伝説でんせつや遺蹟いせきがあります。その多くは

江戸時代に出版された『北越太平記』などの軍記本から生まれたものです。

たとえば、上杉謙信が春日山城で起こった反乱により逃げてきたということや、謙信が敵の目を逃れて身を隠した大石や吹谷にある「正覚庵」などです。「正覚庵」は母の虎御前が晩年に五人の尼さんを従えて移り住み、この地で遷化したと伝えてあります。また「岩倉庵」は菅畑にあり、門察和尚が修行した場所といわれ、門察和尚が座禅を組んだという石が残っています。

Q17 上杉謙信はどのような容貌（かおかたち）だったのでしょうか。

A…吉川元春の使者、佐々木定経が春日山で謙信と対面したとき、謙信は読経中でしたが、壇上から山伏の姿で、太刀をしっかりと腰にさして現われました。その姿を見たとき、音に聞こえた「大峰の五鬼、葛城の大天狗」を想像させ、身の毛もよだつ思いであったと述べています。威風堂々とした、高貴で、神仏が乗り移ったかのような近寄りがない姿で、まさに大天狗に見えたのではないのでしょうか。

【平成28年度 地域の宝磨き上げ事業】

平成29年3月発行

栃尾観光ボランティアガイドクラブ

文 石田 哲彌

田比